



TITLE:

<水族館報告>水族館記録 - 2011年度

AUTHOR(S):

CITATION:

<水族館報告>水族館記録 - 2011年度. 京都大学瀬戸臨海実験所年報
2014, 26: 11-15

ISSUE DATE:

2014-01-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180313>

RIGHT:

水族館記録 — 2011 年度

1. 研究・教育

1月 7日	西田宏紀 教授と院生3人（大阪大学大学院理学研究科西田研究室）が研究用マボヤ574個体を搬入し、大型実験水槽（第3水槽棟作業室）を8.0-8.5℃に冷却して蓄養を始めた（研究概要については本年報第21巻、8ページ参照）。その後5月12日までに数度回収に訪れ蓄養を終了した。	7月29日	科（42人）のバックヤード見学を指導した。
1月18日	イラモの枝（ポリプ数5-10）を3本と丸いカイメン5個体を、伊勢優史 特任助教（東京大学三崎臨海実験所）に提供した。	8月 1日	近畿大学（19人）のバックヤード見学を指導した。
1月22日	社会法人大阪自然環境保全協会（大人13人、小人3人、幼児2人）のバックヤード見学を指導した。	8月 2日-3日	白浜町教育研究会小学校5年生部会（11人）の飼育体験を指導した。
2月 4日	モヨウフグ1尾（打ち上がっていた個体を2月1日に真鍋 さんが持ち込み）および付着していたペンネラの死亡個体標本を北九州市自然史歴史博物館の下村通誉 学芸員に提供した。	8月2日-3日	上地加奈 教員（白浜第一小学校）の地域社会体験研修の一環として、飼育体験を指導した。
2月 8日	コクテンアオハタ・白かったウナギ・フグの交雑個体の死亡個体標本を中坊徹次 教授（京都大学総合博物館）に提供した。	8月 2日	兵庫県私立中学高等学校理科教員研修（18人）のバックヤード見学を指導した。
2月24日	田辺市立三里小学校（生徒9人、教諭1人）のバックヤード見学を指導した。	8月10日-11日	出口雅人 教員（高雄中学校）の地域社会体験研修の一環として、飼育体験を指導した。
3月19日	「浜っ子クラブ」（白浜町立児童館主催、大人18人、子供18人、幼児数人）のバックヤード見学を指導した。	9月6日-7日	奈良学園登美ヶ丘中学校（生徒117人、教諭6人）のバックヤード見学を指導した。
5月10日	加藤千春 院生（ドイツ、ボン大学）にツノツバサゴカイ属の一種など3種約300個体を提供した。	9月15日	京都府職業能力開発協会「さきがけの会」の見学を指導した。
5月27日	「白眉プロジェクト」のバックヤード見学を指導した。	10月15日	京大ウィークス（京都大学の各教育研究施設で行われてきたイベントを、2011年10月15日～23日に集中して行い、一般に公開する催し）に参加した4名のバックヤード見学を指導した。
6月13日	白浜第二小学校の飼育体験を指導した。	10月19日	上南部小学校（生徒43人、教諭3人）のバックヤード見学を指導した。
6月16日	遊佐陽一 教授（奈良女子大学）にタカアシガニの背中に付着していたヒメエボシ6個体を提供した。	10月28日	北富田小学校（生徒18人、教諭3人）のバックヤード見学を指導した。
7月 3日	放送大学京都学習センター面接授業（18人）の見学を指導した。	11月 2日	みなべ町立高城小学校（生徒22人、教諭3人）のバックヤード見学を指導した。
7月15日	大阪シニア自然大学校環境	11月17日	北富田小学校（生徒11人、教諭3人）のバックヤード見学を指導した。
		12月11日	田辺ボーイスカウト（大人4人、小人4人、幼児3人）の水族館見学を指導した。
		12月22日	西田宏紀 教授と院生（大阪大学大学院理学研究科西田研究室）が研究用マボヤ277個体を搬入し、大型実験水槽（第3水槽棟作業室）を8.0-8.5℃に冷却して蓄養を始めた

2. 普及

1月10日 「冬休み解説ツアー」を終了した。教員4人と飼育担当4人とで、12月25日から行った。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し（定員各10人）、表側139人、裏側137人が参加した。

1月12日 水族館のHPを全面的に変更し、水族館記録・観覧者月別集計・飼育生物集計（分類群別）・飼育生物集計（種別）・月別平均飼育水温それぞれの2007年～2008年の情報を更新した。また、水槽解説ファイルをHPからも観覧可能にした。

2月3日、17日 産経新聞、紀伊民報各社とNHKテレビがアズキイボヒトデを取材した。

2月14日 独立行政法人海洋研究開発機構のヒトデに関する質問に対応した。

2月26日 「水族館の飼育体験（以前は「バックヤード体験」だったが、この回から名称変更）」（13:30-15:30）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行った。参加者は7名。

3月14日 「水族館ピア」（情報誌）の取材アンケートに対応した。

3月25日-4月7日 「冬休み解説ツアー」を、教員4人と飼育担当3人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し（定員各10人）、表側135人、裏側117人が参加した。

3月27日 紀伊民報が「春休み解説ツアー」を取材した。

4月26-28日 紀伊民報、産経新聞各社とNHKテレビがヤマトメリベを取材した。

5月21日 「水族館の飼育体験」（9:30-11:30）と「水族館の磯採集体験」（13:30-16:00）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行った。参加者は前者4名、後者11名。

6月4日 「水族館の飼育体験」（9:30-11:30）と「水族館の磯採集体験」（13:30-16:00）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）

を行った。参加者は前者3名、後者3名。

6月6日 東急リゾートサービス会員向け情報誌「タイムス」の取材シートに対応した。

6月18日 「水族館の飼育体験」（9:30-11:30）と「水族館の磯採集体験」（13:30-16:00）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行った。参加者は前者14名、後者16名。

7月21日-8月31日 「夏休み解説ツアー」を、教員4人と飼育担当4人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し（定員各10人）、表側266人、裏側382人が参加した。

8月5日 NHKテレビが「夏休み解説ツアー」の様子を取材した。

9月28日 京都大学のタッチパネル用映像撮影に対応した。

10月22日 「水族館の飼育体験」（13:30-15:30）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行った。参加者は21名。

12月17日 「水族館の飼育体験」（13:30-15:30）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行った。参加者は16名。

12月23日-1月9日 「冬休み解説ツアー」を、教員4人と飼育担当4人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明した（定員各10人）。

3. 収集・飼育・展示

1月11日 2010年6月1日よりウォールケースで展示していた内海富士夫特別展パネルをとりはずし、教員の研究紹介パネルをとりつけた。

1月19日 228号水槽（「さまざまな無脊椎動物」）で長期飼育していたウミケムシ1個体が死亡した。この個体は2009年8月27日に岡本昭生さんから購入したもの。

1月21日 305号水槽（「川と海を行き来するエビ類」）の仕切り区画で飼育していたウナギ1尾が死亡した。この個体は2010年8月16日に榎本 多 さんより受贈さ

- れたもので、当初は全身が白色だったが、徐々に黒い部分が増え、死亡時には左眼下以外のすべてが黒色だった。死亡個体標本は中坊徹次教授(京都大学総合博物館館長)に提供した。
- 3月23日-4月1日 226号水槽(「群れをつくる小魚とイセエビ類」)の白点病予防、および大量発生した小型イソギンチャク対策のため、硫酸銅を計4回投与した。226号水槽に収容していたイセエビは、あらかじめすべて224号水槽(「節足動物 甲殻綱」)に移動させた。
- 3月28日 ウォールケースの「海洋生物の多様性を調べ上げるCoMLプロジェクト」パネルを撤去し、「クモのようでクモでない、謎の動物「ウミグモ」の生物学」パネルおよび標本2点(カイヤドリウミグモとヤマトトックリウミグモ)を展示した。
- 7月19日 台風6号の影響で、海岸に設置されている排水溝がふさがれた。これにより、雨水が第2水槽棟濾過槽に逆流し、第2水槽棟第1・2・3循環系統の塩分濃度が急激に下がった。これが原因で、第2水槽棟第1循環系統の無脊椎動物(計47種138個体)が死亡した。
- 10月25日 江津良海岸でコアマモ26本とオオウミヒルモ12本を採集し、402号水槽(「藻場 植物をすみかとする動物」)に収容した。
- 11月13日 403号水槽(「岩礁 黒潮の豊かな生物」)で展示動物の入れ替え作業(主に0歳魚に更新)を行い、同時に底砂の洗浄などの大掃除をした。
- 11月14日-22日 404~406、409~411号水槽(魚類のみを展示している6個の水槽)の大掃除を行った。いくつかの種では他の水槽へ移収したり、予備水槽の魚と交換したりした。
- 12月 1日 第2水槽棟および第4水槽棟の、水槽タイトルラベルを更新した。これにともない、「~動物」と表記していたものは「~動物門」に変更した。また、今まではすべて大文字で表記していたが、頭文字以外は小文字に変更した(ただし、動物門名は大文字のまま)。さらに、学名が変更されたものは新名称

に変更し、カタカナ分類群名で表記されたもの(「イカ綱」など)は漢字分類群名(「頭足綱」など)に変更した他、現在の展示生物にあわせて追加や削除も行った。

4. 受贈

- 3月18日 魚彦水産(白浜町)より、トラウツボ1尾(全長70cm、串本から仕入れたウツボに混入)。
- 4月 2日 日高明宏 さんより、ハナビラウオ1尾(全長5cm、神島)。
- 4月14日 湯川五郎 さん(みなべ町)より、オオイソバナ1個体(高さ約80cm、鴨居沖)。
- 4月14日 真鍋豊守 さん(白浜町)より、カエルアンコウ1尾(全長16cm)。
- 4月28日 小谷喬崇 さん(みなべ町)より、ウミカラマツ科の一種(高さ150cm、ヒラメ刺網水深100m)。
- 5月 4日 佐田 章 さん(田辺市)より、ハボウキガイほか9種17個体(鳥ノ巣)。
- 6月 3日 遊佐陽一 教授(奈良女子大学)より、アオミノウミウシ1個体(全長3cm、南浜防波堤)。
- 6月9日-11月29日 真鍋 正 さん(白浜町)より、ハナガサクラゲ1個体(全長14cm、綱不知)。ウミケムシ1個体(全長8cm、綱不知)。メナガガザミ1個体(甲幅12cm、綱不知)。コブヒトデモドキ1個体(幅長14cm、綱不知)。イボイワウギガニ(甲幅4cm、綱不知)。トガリマルガザミ1個体(甲幅1.5cm、綱不知)。
- 7月30日 鈴木博之 さん(白浜町)より、ウミギク1個体(全長7cm、田尻)。
- 8月2日-8月10日 大江富夫 さん(白浜町)より、ソウシハギ1尾(全長8cm、瀬戸港)。ナンヨウツバメウオ2尾(全長4cm、瀬戸港)。
- 8月10日-8月24日 岡本昭生 さん(白浜町)より5回に及び、カワハギ・クサフグ・タコクラゲなどを中心に計19種84個体(袋港、釣り)。
- 8月18日-8月23日 荒賀忠一 さん(白浜町)より5回に及び、ヒラスズキ・ヘダイ・マダイなどを中心に計11種41尾(安久川・横浦、釣り)。
- 9月 9日 田上拓也 さん(田辺市)より、スベスベマンジュウガニ2

- 10月8日 個体（甲幅3cm、天神崎）。
真鍋 馨 さん（白浜町）より、
エビクラゲ1個体（傘径13cm、綱
不知）。
- 10月28日 岩城金吾 さん（白浜町）より、
ミカヅキツバメウオ1尾（全長
25cm、田辺湾）。
- 11月 3日 松崎隆治 さん（みなべ町）よ
り、ツチホゼリ1尾（全長40cm、鹿
島）。
- 12月 1日 百合まさひろ さん（白浜町）
より、ヒョウモンダコ1個体（体長
10cm、権現崎）。

5. 生物観察メモ（水槽・野 外）

- 1月 6日 302号水槽（「イソギンチャク
類」）で、オニカサゴとサツマ
カサゴの死亡個体が多くなっ
たため、生存していたオニカサ
ゴとサツマカサゴをすべて303
号水槽に移動させた。302号水
槽で同居していたオニオコゼ
は死亡しなかったため、オニカ
サゴとサツマカサゴは、オニオ
コゼに比べて低水温に弱いと
考えられた。
- 1月17日 413号水槽（「スズキ目 フェ
ダイ科・ハタ科・ヌノサラス
科・イシダイ科」）のイシダイ
がヒラスズキの第2背ビレをつ
ついていて、そのため、イシダ
イを第4水槽棟予備水槽に移動
させた。他のハタ類やフェダイ
類では特に外傷は確認されな
かった。
- 1月23日 第3水槽棟大型実験水槽で、
マボヤの一部の個体が産卵し、
水槽内が濁り泡立った。
- 3月29日 第4水槽棟予備水槽のハタタ
テダイ2尾が、同水槽のニジハ
タの体表をクリーニングした。
ニジハタに寄生していたベネ
デニアを食べていた可能性が
考えられた。
- 4月 5日 202号水槽（「刺胞動物 鉢虫
綱・花虫綱」）のアカクラゲの
触手や口腕に傷が確認された。
同水槽のハナビラウオ1尾に捕
食されたと思われた。
- 5月14日 222号水槽（「節足動物 甲殻
綱」）でオオバウチワエビ1個体
がフィロゾーマ幼生を放出し
た。
- 7月 4日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊
かな生物」）の上部に付着して

いたサンゴイソギンチャクが
縮み、共生藻が少し抜けて、や
や白化状態になった。水槽上部
の水温上昇に関連があると思
えられた。

8月23日 303号水槽でカンムリベラ1
尾がトウカムリ1個体の摂食行
動を妨げる様子が観察された。
このため、カンムリベラを
410-2・3号水槽（「スズキ目 カ
ゴカキダイ科・チョウチョウウ
オ科・キンチャクダイ科・スズ
メダイ科・ベラ科・ブダイ科」）
に移動させた。これにより、
2010年8月25日より確認されて
いなかったトウカムリの摂食
行動が再び見られるようになった。

10月8日 224号水槽（「節足動物 甲殻
綱」）にツマジロナガウニ4個体
を投入したところ、ニシキエビ
とカノコイセエビが殻と棘も
すべて捕食した。大垣俊一 さん
の依頼で、ウニの捕食者を調
査するために行った。

10月18日 306号水槽のタツノオトシゴ
収容区画で、多数のポリプとエ
フィラが確認された。ただし、
種同定はできなかった。

10月20日-21日 221号水槽（「節足動物 甲殻
綱」）のフナムシが姿を現さな
くなくなった。第2水槽室に侵入
していたイソヒヨドリ1羽が221
号水槽に侵入したのを複数回
目撃したため、これが原因でフ
ナムシが隠れてしまったと思
えられた。

6. その他

- 1月25日 203号水槽の水漏れが悪化した
ため、水を抜きシリコン補修を行
った。
- 2月 1日 水族館の閉館時間を17:15から
17:00に変更した。これにともな
い、最終入場時間を16:45から
16:30に変更した。
- 2月1日-2月21日 水族館のトイレ改修工事が行
われた。このため、第3水槽棟出
口の外側に仮設トイレが設置さ
れた。
- 3月11日 東日本大震災による大津波警
報が発令されたので、16:45に閉
館した。
- 3月12日 東日本大震災による大津波警
報が解除されなかったため、臨時
休館とした。

5月24日	203号水槽の水漏れを防ぐため、業者が壁面にエポキシ充填を行った。	9月2日-4日	台風12号の影響で暴風警報が発令されたため、臨時休館とした。
6月28日-29日	日本動物園水族館協会第77回近畿ブロック水族館飼育係研修会を当館で行った。参加者は21人（他館の飼育係は13人）であった。	9月21日	台風15号の影響で暴風警報が発令されたため、臨時休館とした。
7月16日	223号水槽（「節足動物 甲殻綱」）の漏水が悪化したため、業者が樹脂注入を行った。	11月11日	201号、202号、203号、211号、213号、223号、224号、229号水槽の水漏れを防ぐため、業者が壁面にエポキシ充填を行った。しかし、203号、211号、229号水槽の水漏れは止まらなかった。
7月19日-20日	台風6号の影響で暴風警報が発令されたため、臨時休館とした。		